

大学が育てる グローバル人財の姿



清成忠男

法政大学学事顧問(法政大学元理事長・総長)

グローバル人財の重要性が叫ばれている。大学においてもグローバル人財の養成が重視されている。だが、グローバル人財の内容については、あまり掘り下げた検討がなされていないようである。

1 求められる人財

グローバルに活躍するうえで、どのような人財が求められているか。

問題解決を要するグローバル・イシューは、多様に存在している。しかも、さまざまな側面を有している。解決には学際的知識が不可欠であり、総合的学習が必要になる。グローバルな視点のもとで、学習しなければならない課題は広く、かつ、深い。

もっとも、グローバル人財に限らず、一般に自立型人財が重視される傾向にある。自立型人財とは、自ら考え、決定し、責任をもって行動するタイプの人財である。自己責任及び社会的責任を意識して行動する。その際、明確な志をもって行動するのである。進路選択を主体的に行うのであり、自ら人生設計を行う。グローバル人財であれば、なおさら自立志向でなければならないと思われる。そして、単に自立志向というだけでなく、社会的有用性が求められる。その行動は社会の一翼を担うことになる。

のみならず、問題解決能力が求められる。現代社会にお

いては、内外にさまざまな問題が山積している。グローバルに行動すればする程、多様な問題の解決に迫られる。対応するためには、独自の専門能力が求められる。

それも、学際的な能力が必要になる。総合的学習によって、合目的に多様な知識を習得しなければならない。現代は、知識基盤社会である。多様な知識が日常的に創造されている。こうした知識を駆使して、問題に対応しつつ自ら新しい知識を創出し、解決をはかることになろう。

いずれにしても、グローバル人財は、単に外国語が堪能な人財ではない。こうした認識は常識化しているようであるが、必ずしも十分に理解されているとはいえない。

2 幅広い教養が不可欠

グローバル人財には教養が不可欠であるという見解が広がっている。「国際教養学部」、「グローバル教養学部」といった名称の学部もすでに設置されている。

ただ、問題は、教養の内容である。単純に教養をリベラルアーツと理解している向きもある。実際、最近、「リベラルアーツ学部」を設置している大学も複数存在している。リベラルアーツという概念の意味内容も一様ではない。

リベラルアーツの母国アメリカにおいても、最近では「リベラルアーツは特定の専門分野である」といった見解が登場している。アメリカ大学協会の問題提起である。同協

会は、「リベラル・エデュケーション」を重視している。この「リベラル・エデュケーションとは個人に能力を付与し、知性を与え、社会的責任を養成する教育哲学である」。

教育の原則としては、(1)高い志、(2)方向性の思考、(3)イノベーションの手法の教育、(4)大きな問題への挑戦、(5)知識の活用、(6)他文化理解、(7)問題解決能力の評価、の7項目が協会によって示されている。

こうした状況をふまえると、教養の概念や意義が時代とともに変化することが明らかであろう。グローバル人財との関わりでいえば、異質人財の理解を重視すべきであろう。わが国の組織は同質集団が志向され、異質人財は組織から弾き出された。いわゆる日本の経営においては、そうした状況が典型的であり、キャッチアップ型の発展過程においては大きな効果をあげた。イノベーションよりも、幅広い「改善」が進んだのである。

だが、キャッチアップの終了とともにイノベーションが求められ、異質人財が重視されるようになった。異質人財との接触によって知的摩擦が生ずる。それが刺激となり知的創造が進む。異質人財のインターアクションによって、イノベーションが進むのである。

また、グローバル化の進展によって、外国人との接触が拡大する。これも、異質人財との接触である。わが国の多くの組織は、外国人を含む異質集団へと転化しつつある。その結果、他文化理解ないしは多文化理解の重要性が強まっている。

そうした理解を進めるためには、前提として自国の歴史や文化の理解が必要になる。次いで、外国人の日本理解を知らなければならない。法政大学では、外国人の日本研究の成果を研究対象とする「国際日本学」研究を発足させ、21世紀COEプログラムに採択された。だが、このプログラムについては、外部の審査担当者の評価能力に問題があり、理解を得ることが容易ではなかった。

続いて、日本人の外国理解がきわめて重要になる。歴史や文化の研究を深めなければならない。日本と外国の相互理解の道筋を創出・拡大するのである。

こうした異文化の相互理解のためには、コミュニケーションの手法も多様にありうる。こうした手法の研究も、学問対象にすべきであろう。

とにかく、グローバル人財の育成において教養教育が重要であることは確かだが、既存の教養教育による対応には限界があるといわざるをえない。アメリカの「リベラル・エデュケーション」も、そうした試みの一つである。いま、世界各国で、大学がこうした新しい試みに挑戦していると思われる。

3 問題解決能力

グローバル人財の能力形成のうえで重要なのが、問題解決能力である。グローバルな活動にあたっては、予期しない多様な問題に直面することが少なくない。しかも、答えの無い問題の解決に挑戦しなければならない。現実には、解決の仕方の設計と解決の実行力に着目する必要がある。

そもそも、問題解決は、自ら主体的に行うものである。状況に応じて、経験や知識を駆使して創造的に行うことになる。したがって、解決の仕方を平準化し、マニュアル化することは困難である。ただ、解決の段取り・手順を理解しておくことは有効である。それによって無駄な失敗を避けることができる。

そうした視点から、まず「問題把握」を行う。問題を検討し、本質を解明する。その結果、問題の所在に気づく。そのうえで、解決のアイデアを発想する。そうしたアイデアに基づき、解決策を構想する。こうして、問題把握から、解決の構想に至る。

ただ、それだけでは、独善に陥るおそれがある。構想案を第三者に評価してもらう必要がある。それも、実現可能性を論理的に検討し、分析的に評価してもらう必要がある。それで、ヴァージョン・アップが可能になる。第三者評価は、異質人財による評価が望ましい。

そして、構想力が向上し、ヴァージョン・アップした案をさらに第三者評価に委ねる。こうして、構想案はさらに向上し、完成度が増す。こうしたプロセスを経て、解決策が完成する。

多様なプロジェクトを経験することによって、問題解決構想力は自己形成的に向上することになる。アイデアの創発力も増す。

さらに、問題解決の実行にあたっては、何らかの専門能力が必要になる。もちろん、他者の協力を得る場合もある。実行の中心的人財には、チーム・プレイのノウハウやリーダーシップが求められる。

とにかく、グローバル人財の形成には、既存の教育を超えた新しい教育も求められる。また、こうした新しい教育の展開には、産学連携が必要になる。グローバル化への対応には、大学はどうしても遅れがちになる。

4 大学の対応

それでは、グローバル人財の教育において、わが国の大学の対応はどうか。一言でいえば、総じて遅れているといわざるをえない。

大学のミッションとして、グローバル化ないしは国際化対応をうたっている大学はきわめて少ない。読売新聞「大学の实力調査」(2014年)では、「学びたくなる大学」としての特色を学長に答を求めた。回答総数691のうちグローバル対応の回答は34.49%にすぎなかった。目立った回答例は、次の通りである。「本質を見極め世界に羽ばたく」(大阪大学)、「国際性を育む総合大学」(神戸大学)、「グローバルな都市研究・教育拠点」(大阪市立大学)、「世界とつながる、地域とつながる」(島根県立大学)、「国際社会で活躍できる人材育成」(名桜大学)、「グローバルな社会を生き抜く力」(城西国際大学)、「世界文化に技術で貢献する大学」(千葉工業大学)、「社会と世界に接点をもつ教育」(明治学院大学)、「国際化対応の最も進んだ大学」(早稲田大学)、「国際的視野は日本理解から始まる」(皇學館大学)、「日本にいて外国文化が学べる大学」(京都外語大学)、「世界で学び、社会に活かす」(関西国際大学)、「国際的なセンスと実力を君の手に」(立命館アジア太平洋大学)、「世界に通用する知性と学びの大学」(宮崎国際大学)。

また、グローバル化への対応を示す指標として、わが国から外国に送り出す学生の数、外国から受け入れる留学生数を見ておく必要がある。前者については悲観的な見方が強いが、一定期間外国への留学を義務づけている学部、大学が費用を負担して外国に送る留学生制度、短期間の学生交流制度などはしだいに増加している。

他方、受入留学生数であるが、頭打ちの傾向を示している。ただ、派遣国の数は増加する動きがでており、これは良質の留学生を確保するうえで歓迎すべき事態である。

さて、グローバル対応のもう一つの指標は外国人教員の採用であるが、最近では漸く増え始めたとはいえ、大きく遅れている。今後、積極的に取り組むべき課題である。大学の世界ランキングを見ても、この点が反映されている。

2013-2014年のタイムズ世界ランキングの上位校の状況を見ると、表1の通りである。この表は、総合点の上位5位校、それに次ぐアジアの上位校、日本の上位校を見たものである。総合評価点と国際性評価点をそれぞれについて見たものである。上位5校はいずれも英米の大学であり、国際性の評点も高い。これに対して、わが国の大学は東京大学をはじめ国際性は低水準である。むしろ、シンガポールや香港などアジアの大学の方が国際性の点数が高い。とにかく国際化対応を重視すれば、わが国大学のランクは確実に上昇する。

ランクはともかく、わが国の大学は、今後、総じてグローバル人財の養成に本格的に取り組むべきであろう。結果としてランクが上がれば、外国大学との提携が円滑化し、大学全体としてグローバル人財の育成に弾みがつく。好循環が生ずるのである。

表1 大学の世界ランキング (2013-14)

順位	大学名	総合	国際性
1	カリフォルニア工科大学	94.4	65.8
2	ハーバード	93.9	66.2
2	オックスフォード	93.9	90.2
4	スタンフォード	93.8	58.0
5	マサチューセッツ工科大学	93.0	82.0
23	東京	76.4	29.6
26	シンガポール国立	72.4	84.3
43	香港	65.3	80.3
44	ソウル国立	65.2	29.4
45	北京	65.0	60.6
50	清華	63.5	42.6
52	京都	63.2	27.5
125	東京工業	50.8	32.1
144	大阪	49.0	27.6
150	東北	48.5	29.3

資料：タイムズ

表2 東北大学とフライブルク大学の比較

評点	東北大(150位)	フライブルク大(152位)
総合	48.5	48.4
教育	51.8	40.1
国際性	29.3	55.9
産業からの収入	85.9	86.6
研究	48.1	28.9
論文引用数	47.3	71.8

資料：タイムズ (2013-2014)

5 外国の事例

外国の大学も、グローバル人財の育成について新しい試みを展開している。ここでは、ドイツのフライブルク大学の例を紹介しておこう。

フライブルクはドイツの南西部に位置し、フランス及びスイスの国境に接している。フライブルク大学は国(州)立大学であり、タイムズのランキングでは152位である。ドイツの大学では8位である。150位の東北大学と比較すると、表2の通りである。評点は100点満点の数値であるが、東北大学は国際性が29.3とフライブルク大学の55.9と比較するとかなり劣る。逆に、教育と研究では、東北大学が優れている。南西ドイツ、東南フランス、スイスのバーゼル都市地域は国境を超えた地域形成を進めており、フライブルクはその拠点の一つである。この地域は、ドイツ語とフランス語のバイリンガル、ゲルマン文化とラテン文化の混合地域である。EU統合が進む過程で、この地域は独自の拠点形成を行っている。産学連携が活発であり、「バイオ・バレー」が形成されている。フライブルク大学の産業からの収入が著しいのはそのためである。74位のバーゼル大学(スイス)とともにライフサイエンスの研究の一翼を担っている。フライブルク大学は12学部を有する総合大学であり、最近では化学・薬学部とバイオロジー学部の活動が目立っている。また、環境・自然資源学部は環境都市フライブルクの形成に寄与している。

このように、フライブルク大学はEUの中で独自の拠点大学への道を戦略的に歩んでいる。当然、外国人学生の受入れを重視している。こうした戦略に基づいて、同大学は

2012年冬学部から「リベラルアーツ・サイエンス」の学士課程をスタートさせている。ドイツでは初めての試みである。

もともとドイツには「リベラルアーツ」という概念は存在しない。したがって、カリキュラムの内容は、アメリカの伝統的な「リベラルアーツ」とはかなり異なる。むしろ、この学士課程の目的は新しいタイプの人財形成にある。いわば、グローバルに活躍しうる人財である。

その特徴は、次の3点にある。

- (1)知識の創造、普及、応用
- (2)言語と文化
- (3)責任とリーダーシップ

学際的であり、英語で教育を行う。教育プログラムは、四つの分野から成る。

(1)コア科目(66単位)

プログラムの中核を成す。一般的なアカデミック・スキルに加え、現代的な社会的チャレンジに焦点を絞り、サイエンス、知識及び研究の理論を教え、責任感とリーダーシップを育む。

(2)言語科目(36単位)

英語、ドイツ語等による高度のコミュニケーション能力を育む。

(3)主要科目(90単位)

サイエンスとヒューマニティーの学際的教育、大学院進学のための学力をつける。

(4)選択科目(48単位)

特定の専門基礎科目。

このプログラムは、学生の動機の評価に基づいて、科目と学生の意向をマッチさせ、個々の学生に適応した独自の知の体系の構築を支援する。それによって、学際的、柔軟、かつ、オープンな問題解決能力を身につけさせる。

初年度は78人の学生が入学。今後の動向が注目される。

グローバル人財は単なる「英語屋」ではなく、現代的な知力に富んだ深みのある人財である。学外の協力を得て、大学が教育を担うことになる。

